

開催地名：東京都港区	
開催日時	令和4年9月27日（火） 10：35 ～ 11：20
開催場所	港区立御成門小学校
語り部	菊池 由貴子 （岩手県大槌町）
参加者	在籍児童 合計413名
開催経緯	<p>本校は学区域が非常に広く、地域によって特色が異なる。「ビルに囲まれている」、「海からの影響を受ける」、「広い道路を渡る」、「開発が進んでいる」等、エリアごとに災害発生時の状況も様々である。</p> <p>以前の講演から年数が経ち、聴講した児童もほとんどが卒業しているため、改めて講演を開催して、自分の身を守ることの大切さを知り、周りの状況に応じて自ら判断して自身の安全を確保する力をつけてもらいたい。</p>
内容	<p>（１） 災害とは</p> <p>みんなも経験してよく知っていると思うが、台風の影響で強い雨が降ったり、強い風が吹いたりすることがある。また、最近ではゲリラ豪雨と言って、局地的に大雨が降ることも多い。雷が落ちたり、大雨によって洪水が発生したりすることもあるし、火災や停電、地震、津波も災害である。今日は地震と津波を中心にお話ししたいと思う。</p> <p>（２） 東日本大震災とは</p> <p>2011年3月11日の午後2時46分に、東北地方でとても大きな地震があった。地震の大きさはマグニチュード9.0で、これは日本最大の大きさであり、世界でも4番目の大きさの地震だった。</p> <p>次にこの地震でどのくらいの揺れが発生したのか検証してみる。それぞれの場所でどれくらい揺れたかを示す「震度」は1～7まであり、私の住む岩手県の大槌町では震度5強から6弱の揺れであった。皆さんの住む東京都港区でも震度5弱を記録し、北は北海道から南は九州まで、日本中が揺れた地震だった。</p> <p>震度5弱 怖くて、物につかまりたい、食器や本がおちる、電柱が揺れる 震度5強 物につかまらなさと歩けない、食器や本がたくさんおちる 震度6弱 立っていられなくなる、窓が割れたり建物が傾くこともある 震度6強 這わないと動けない、家具が動き倒れる、山が崩れることもある 震度7 丈夫な建物でも傾いたり、倒れたりする</p> <p>また、この時の地震では、青森県から千葉県までの海岸沿いを津波が襲った。高さ10メートルを超えるものもあった。津波は陸地でも人より速く、しかも繰り返しやってくる特徴があるので、高いところに逃げる必要がある。高さ0.3メートルの津波でも、立っていられなくなり流されてしまうし、高さ1メートルの津波に巻き込まれると、ほとんどの人が亡くなってしまふ。東</p>

日本大震災では、このように大きな地震と、地震に伴う大きな津波により、多くの人々が流され、亡くなってしまった。

(3) 防災とは

防災とは、災害に備えることだ。災害は必ずやってくるものだが、私たちはそれを止めることはできない。しかし、災害に備えることや、準備をすることはできる。

防災で大事なことが3つあるので説明したい。一つ目は訓練が大事ということである。東日本大震災の際には、中学生が小学生や保育園児の手を引いて高い所に避難した。これは普段からきちんと訓練を実施していたからできたことだ。野球やテニス、剣道をやっている人は、素振りの練習を必ず行う。これをしないと試合の時にうまくいかないからだ。防災のための訓練は素振りと一緒に、普段の訓練をしっかり行わないと、災害時にうまくいかなくて苦労してしまう。

二つ目は「あたりまえのことに感謝する」ということだ。みんなは家族や友達が周りにいることが当たり前だと思っているが、このような当たり前の生活ができなくなってしまった人が、東日本大震災でたくさん発生したことを忘れてはならない。

三つ目は「命を大切に生きる」ということだ。生きたくても死んでしまった人がたくさんいる。辛くても悲しくても、命を大切に生きることがとても大切である。みんなには、自分の命、周りの命を大切に、よりよくなるために生きることを目指してほしい。



開催地より

東日本大震災被災時の体験について、東日本大震災の地震災害の状況について、避難所における生活についての3点をわかりやすくお話しいただいた。学校としては今日のお話しを受けて、毎月の避難訓練計画の見直しと、児童への安全教育の徹底について重点的に取り組んでいきたいと思う。